



東国における古墳の動向からみた律令国家成立過程の研究

内容・目次

【内 容】

本書は、考古学と周辺諸学を含めた古代国家形成論を丹念に整理した点に特色をもつとともに、栃木県のしもつけ古墳群をケーススタディとして東日本各地の様相と対比することで、東国における6～7世紀史の構築をめざす。まず、埋葬施設の諸要素に地域間交流の姿を見出し、国家成立に向けての重要な要因になる、という方向性を示す。次に、墳丘規模からみた階層性をもとに、社会構成モデルを提示し、古墳の動向からみた律令国家形成過程における五つの画期の設定に至る。ただし、東国各地の歩みは共通性と独自性を併せもち、その道程は、5世紀後半を画期とする到達点である連合体制を基礎とするシステムをその枠組みに取り込んだ点において、古墳時代における各地域の実態に即したものであった。國學院大學博士論文に加筆、刊行。

【目 次】

序 章

第1節 研究の背景と目的

第2節 研究の方法

第1章 先行研究の整理

第1節 古墳時代と古代国家形成論

第2節 評の成立

第3節 擬制的同祖同族関係

第2章 しもつけ古墳群にみる東国社会の一側面

第1節 しもつけ古墳群の概観

第2節 切石使用横穴式石室の編年

第3節 低位置突帯埴輪

第4節 群集墳・集落の動向

第5節 前方後円墳の終焉と終末期古墳

第3章 遺跡・遺物が語る律令国家への道程

第1節 須恵器生産の開始と神宮寺塚古墳の「埴」敷横穴式石室

第2節 破壊された石室

第3節 那須国造碑と『日本書紀』持統紀新羅人東国移配記事

第4節 立評と西下谷田遺跡そして下野薬師寺の建立

第4章 埋葬施設にみる広域地域間交流の実態とその背景

第1節 石棺式石室

第2節 横穴式木室

第3節 地下式横穴墓

第4節 「地域間交流論」とその周辺

第5章 東国各地の首長墓の地域相にみる独自性と共通性

第1節 6～7世紀における東国各地の首長墓の動向

第2節 東国各地の最後の前方後円墳と終末期古墳

終 章 古墳時代終末期から律令国家成立期の東国

第1節 東国からみた6～7世紀史の素描

第2節 課題と展望

あとがき